







株式会社カナメ 社名 代表取締役社長 吉原 正博 所在地 宇都宮市平出工業団地38-52

# 事業概要

- ・ 金属屋根・太陽光関連製品の開発・製造・施工・販売
- ・社寺総合建築









#### 屋根材と一体化した太陽光パネルの開発



- ・屋根材と一体型の太陽光パネルを開発する事で 太陽光発電の普及に大きく貢献
- ・屋根材としての施工性の向上
- 建物の意匠性、防水性の向上
- ・総出荷量:75,800枚(17.4メガ相当)  $2010.8 \sim 2023.8$
- ・削減効果(参考): 11,300 t-CO2/年



### 太陽光パネル設置金具の開発



- ・様々な形状の屋根に太陽光パネルを設置できる金具を開発する事で 太陽光発電の普及に大きく貢献
- ・工場・倉庫屋根に穴を開けることなく施工が可能
- ・総出荷量:554万個(73.88メガ相当)  $2011.9 \sim 2023.8$
- ・削減効果(参考): 480,000 t-CO<sub>2</sub>/年



社名 新那須温泉供給株式会社 代表取締役 稲川 隆太 所在地 那須塩原市新朝日5番35号

# 事業概要

- ・温泉の供給及び管理業務
- ・熱利用など省エネ・再エネ関係コンサル



3 号ボイラー棟 (左)ヒートポンプ設備、(右)ボイラー設備



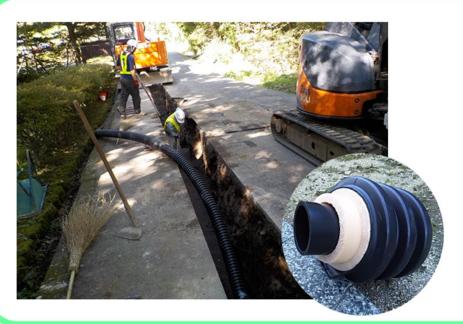
紅葉橋源泉噴気泉



弊社パイプラインと 温泉供給設備



#### 温泉供給施設の高効率化



- ・高断熱保温管や水冷式ヒートポンプにより、温泉 の温度を下げずに旅館等に供給するシステムを構築
- ・温泉昇温時に排出されていたCO2を大幅削減 (削減効果:1,212 t-CO2/年)
- ・周辺地区や他の温泉地にも取組を拡大

#### 小水力発電所の建設



・取水口(写真左)及び沈砂槽(写真右)の特許を取得、小水力発電所を建設



社名 株式会社ダイセキMCR 代表取締役 本郷 忠史 所在地 宇都宮市平出工業団地38-25

# 事業概要

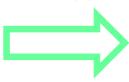
- ・非鉄金属精錬業(鉛二次精錬)
- 廃棄物処理業



# 廃バッテリー (原料)







鉛インゴッド(製品)





#### 鉛熔解炉のガス化



- 解体した廃鉛バッテリーの鉛を溶かして ブリオン(粗鉛)にする装置
- ・従来は燃料をコークスとしていたが、 燃料を都市ガスに転換

#### 電気による誘導加熱式鉛精錬炉の導入



- ・ブリオン(粗鉛)を精錬し、純度 99.99%の鉛インゴッドにする装置
- ・従来は重油を燃料とした精錬炉であったが、燃料を電気とする誘導加熱式鉛 精錬炉を導入



- ・鉛熔解炉のガス化は業界初
- ・電気による誘導加熱式鉛精錬炉の導入は世界初
- ・削減効果:3,186 t-CO<sub>2</sub>/年



社名 株式会社栃毛木材工業 代表取締役 関口 弘 所在地 鹿沼市下永野777

# 事業概要

- ・林業
- ・製材・チップ製造業
- ・ 建築業

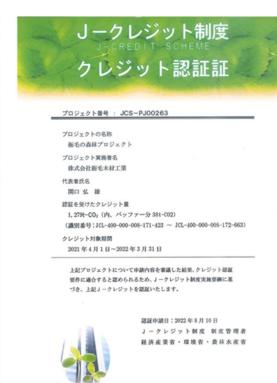






#### 森林分野における」クレジット認証の取得





- ・経営計画に基づく社有林の適切な管理により、生み出されたCO2吸収量を売買できる Jクレジット認証を取得
- ・森林分野におけるJクレジット認証は県内初
- ・2021年4月1日~2022年3月31日での認証クレジット量1,279 t

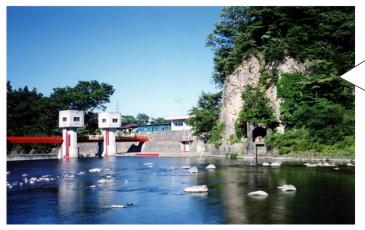


## 団体概要

団体名 那須野ヶ原土地改良区連合

理事長 渡辺美知太郎

所在地 那須塩原市接骨木447-8



2017 世界かんがい 施設遺産登録

2018 日本遺産認定

# 事業概要

日本三大疏水のひとつ、那須疏水の取入口/西岩崎頭首工

・ ため池及び用排水路並びに小水力発電施設等の維持管理



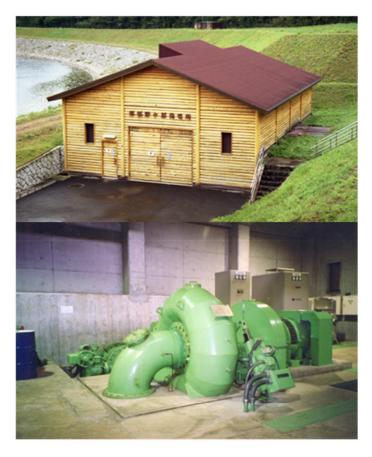
那須野ヶ原再エネマップ

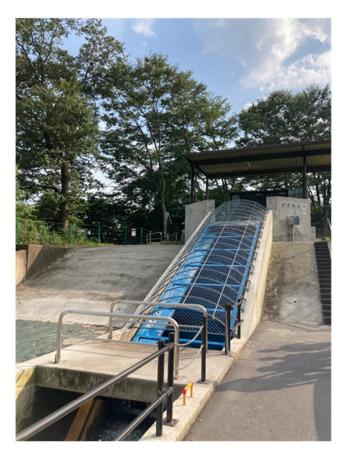


那須野ヶ原総合開発水管理センター操作室



#### 農業用水を活用した小水力発電





- ・地区内の小水力発電 9 基を設置、全体での削減効果は3,963 t-CO2/年
- ・那須野ヶ原発電所(写真左)は地区内最初の小水力発電、平成4年から稼働 (削減効果:915 t-CO2/年)
- ・折戸発電所(写真右)を新設、令和4年から稼働(削減効果:101 t-CO2/年)



社名 日本遮熱株式会社

代表取締役 野口修平

所在地 足利市五十部町185-2



- ・遮熱材の開発・製造・販売
- ・遮熱工事請負

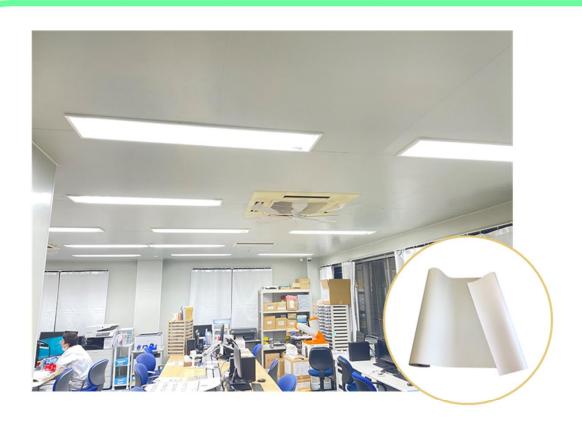








#### 遮熱効果のある内装材の開発





- ・眩しさを抑えた遮熱クロスを開発することで、建屋内の省エネに大きく貢献
- ・熱の移動を抑制し、空調使用によるエネルギー消費を大きく抑えることが可能
- ・累計施工面積:80,000 m<sup>2</sup>